

そぞろ歩き～日本橋

提案の趣意

首都高速が浅い地下に入る工夫

まちづくりのコンセプト

川そぞろ→道そぞろ→町そぞろ
段階的まちづくり

まちに導入する機能

オープンスペース、ミュージアム(伝統・文化)
歩道空間、公園空間、商業空間

首都高速が浅い地下に入りまます

日本橋から旅は始まる。日本橋は古くから旅の元標。

ここを起点に町は栄え、各地へと広がっていった。

高速道路に覆われ、水辺のきらめきを失った日本橋川。
緑陰を失い、炎熱に咽ぶ路地裏道。

いま一度、日本橋に人の歩みを…あてどなく、あそこここと
歩き廻り今、日本橋で人が「そぞろ歩き」を始める。

一、人が歩けば、人が交わる

一、人が交われば、文化が生まれる

一、文化が生まれれば、町に風が吹く

今、日本橋のまちづくりを、歩くことから始める。

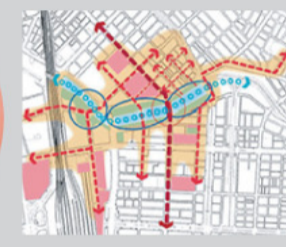
その1
川そぞろ
3つの水景づくり



その2
道そぞろ
道へのじみ出し



その3
町そぞろ
町全体の賑わい



まちづくりの元標(はじまり)となる3つの水景づくり

常盤の森

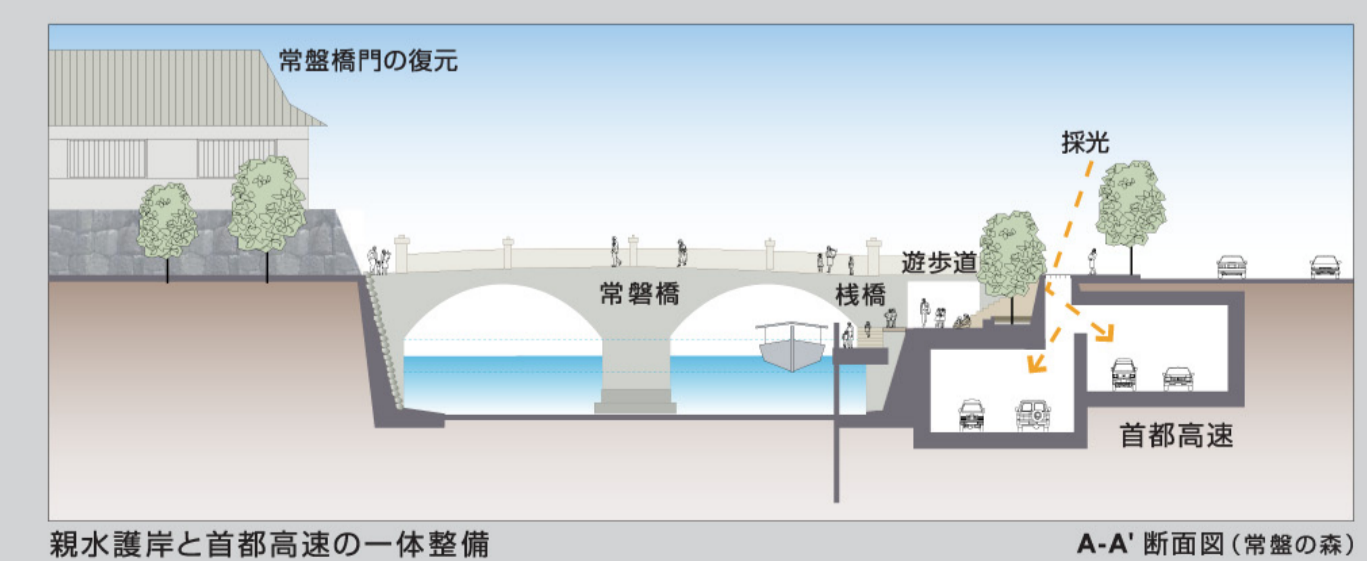
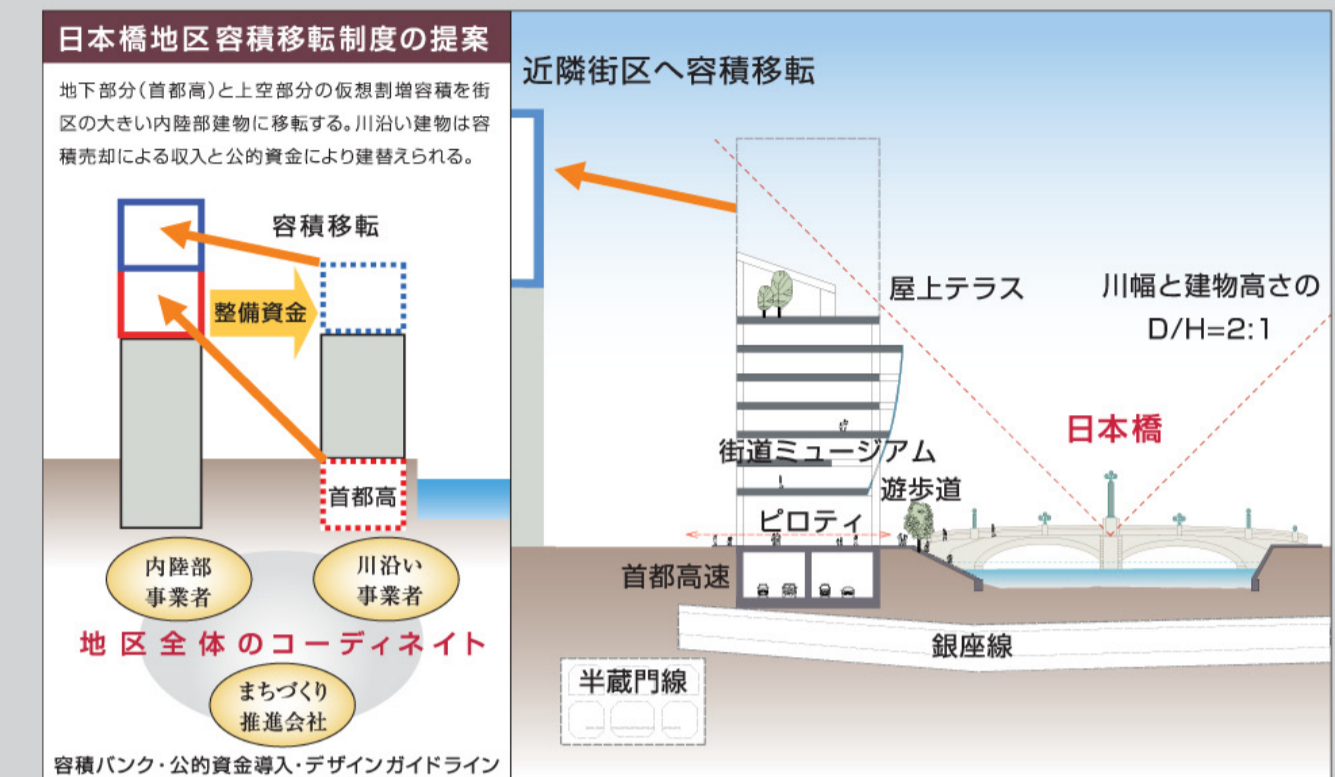
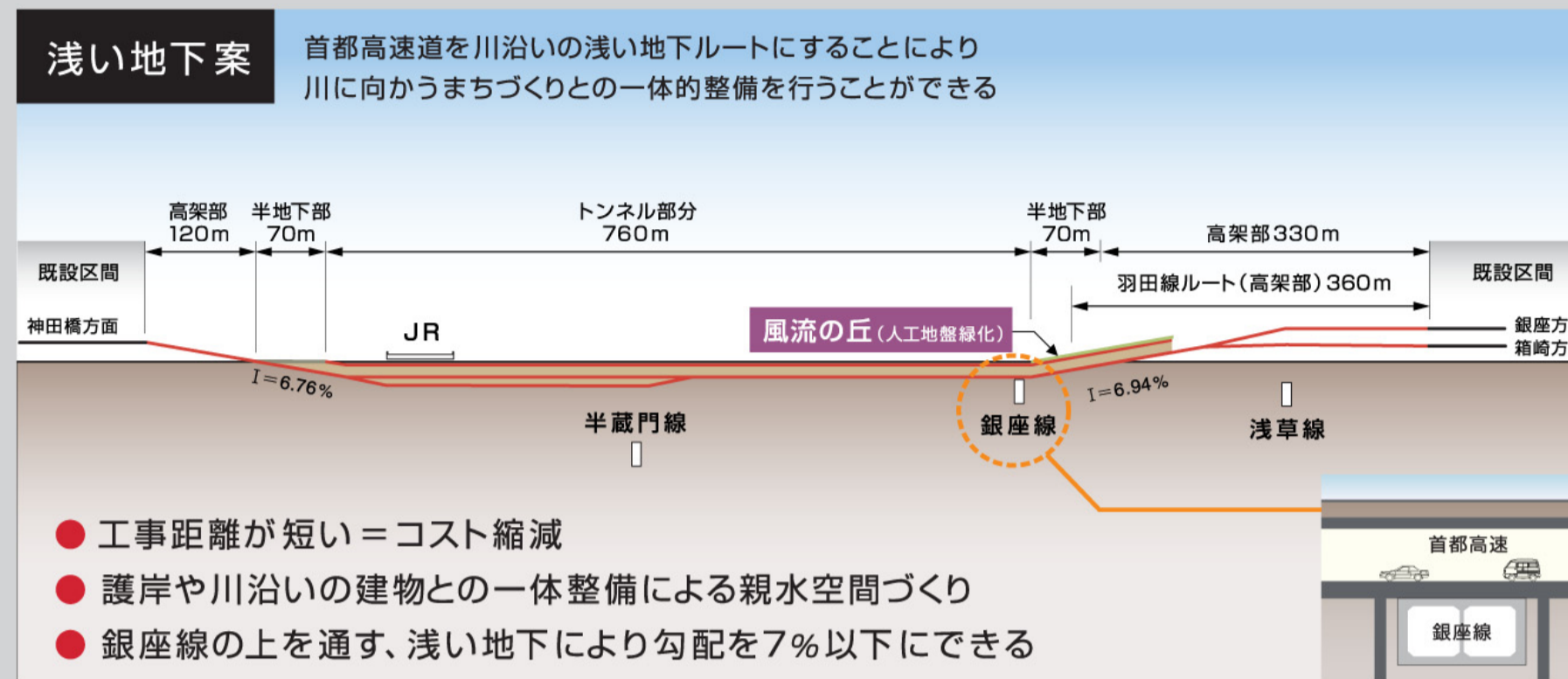
江戸城常盤橋門の石垣や旧常盤橋、日銀本店があり、江戸東京のまちづくりの「常盤=永久不変性」を感じるオープンスペースを再生し、水辺と緑陰のある親しい森とする。

人々の河岸

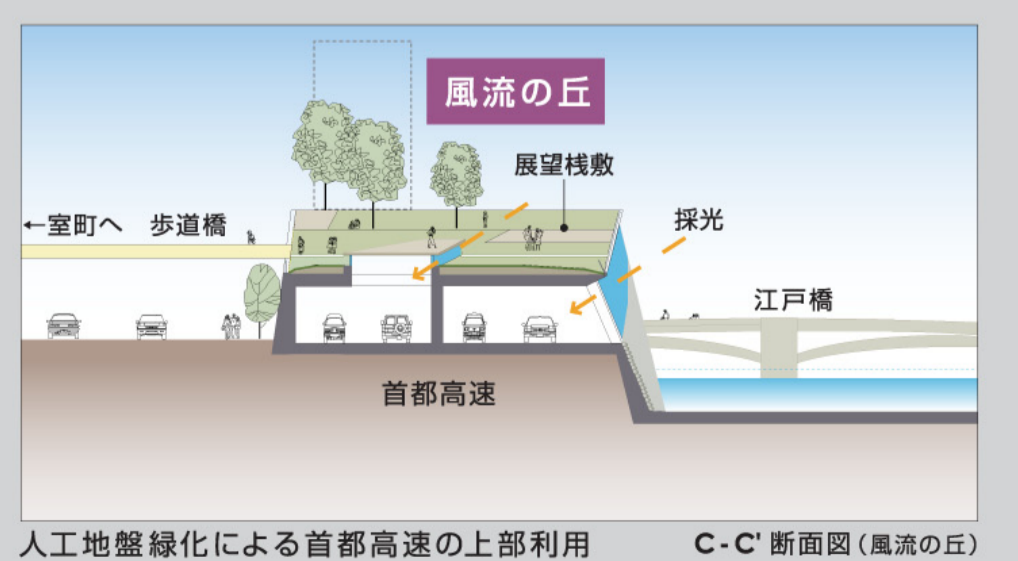
日本橋・室町・八重洲にある新旧の拠点との結節点である西河岸に、日本橋に「人々」が交わる新しい河岸を再生し、賑わいのある水際空間とする。

風流の丘

地下から江戸橋ジャンクションに駆け上がる首都高速の上部に、日本橋の備忘から東に伸びる丘をつくり、昇り来る月や、野外舞台の伝統芸能を鑑賞する「風流」を楽しむ場とする。



親水護岸と首都高速の一体整備 A-A'断面図(常盤の森)



人工地盤緑化による首都高速の上部利用 C-C'断面図(風流の丘)



常盤の森 江戸から積み重ねる歴史の継承 ●江戸城の正面玄関「常盤橋門」の復元●常盤橋公園整備



人々の河岸 交流により生まれる新しい日本橋文化 ●周辺の商業施設やオフィスから水辺を求めて集まる人々



風流の丘 四季の彩りをたしなむ芸能・歳事の場 ●新能●歌舞伎●月見●野点●句会